

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
111	川崎市立岡上小学校	岩倉 義則

<p>学校教育目標</p> <p>学校教育目標「つよい子 正しい子 ほがらかな子」 【つよい子】確かな学び、くじけぬ心、健康体力を培う 【正しい子】人と地域と自然と共により良く生きる基盤を培う 【ほがらかな子】自己を認め、尊重する豊かな人間性を培う</p>	<p>今年度の重点目標</p> <p>◎言葉を大切にされた教育活動 【学び合い】 ○使える知識・技能の習得、心や体の維持・向上に向け、ねばり強く取り組み、自ら解決できる力を育む 【つながり合い】 ○人と地域と自然とのかかわりを通し自分の在り方を考える ○ふるさと岡上・川崎プライド、共により良く生きる心を育む 【支え合い】 ○一人一人を尊重し、自己、互いの多様性を認め合う心を育み、実践する 【安全・安心】 ○いじめ、事件・事故を未然に防ぐ指導と体制づくりを推進する ○自分らしくあることへの誇りを育てる</p>
---	---

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
1	<p>◎言葉を大切にされた教育活動</p> <p>(学び合い) ○学びの中で「言葉」を大切にしていく。 ・いろいろな言葉に、たくさん触れさせながら様々な表現を身につけていく。 ・言葉が繋がったときの喜びをたくさん経験させて、自信につなげていく。 ・思いを言語化する力がつくように、個別に支援していく。</p> <p>(つながり合い) ○かかわりの中の「言葉」を大切にしていく。 ・たてわり班活動以外でも、委員会が計画したイベントなどで年間を通して異学年で関わり合う機会を設ける。</p> <p>(支え合い) ○支えあう中で、「言葉」を大切にしていく。 ・児童の言葉の受け止める教職員の意識向上を図る研修やOJTを実施する。</p> <p>(安全・安心) 聞き取りをもとに心の変化、あり方などを、共有できるようにする。</p>	<p>・学習全般において言葉を大切にされた教育活動をあらゆる場面で意識的に設定した。その中で言葉を大切にしようとする心情を育ててきた。</p> <p>・学習や活動の中で、対話を意識的にもつてきた。対話を楽しむ姿が見られた。</p> <p>・思いを言語化することが難しい場合は、聞き取りながら言葉にし、選択肢を提示して選んでいくようにした。その中で言葉を生み出していった。</p> <p>・縦割り班活動だけでなく、学習や委員会、行事での異学年交流を通しかかわり合う相手の言葉の聞き取りや受け止め話しする姿がみられた。</p> <p>・「SOS出し方・受け止め方教育」を実施する前に職員研修を行った。また、職員チェックシートを行うことで、受け止めたり伝えたりすることへの考え方を確認した。</p>	<p>・学習において、問いを大切に、話したくなる場面をつくるべく、</p> <p>・学習において、一人学び・ペア学び・全体学び・まとめ、ふりかえりといった学習の流れを意識し、自分の思いを言葉にする場と対話し深めていく場とを設けていく。</p> <p>・目的意識をもたせ異学年で交流する。</p> <p>・「SOS出し方・受け止め方教育」を軸として児童の言葉の受け止めることや、思いを伝えることへの意識向上を図っていく。</p>	
2	<p>◎学びの中で「言葉」を大切にしていく。 ○自ら課題を見つけ、解決しようとする力、知識・技能を育む。 ○学習したことや成果を振り返り、次の学習へと活かす力を育む。 ○自分の心や体の状態に向き合い、自分を知り、大切にすることを育む。</p>	<p>・学習の導入などで地域での活動や体験を積極的に取り入れることで、子どもたちが主体的に学びに向かう姿が見られた。</p> <p>・校内研究会においても、子どもたちや授業者の思いを大切にされた授業づくりや研究討議を行うことができた。</p> <p>・教師のねらいが明確でない、活動や体験をして学習が終わってしまうことがある。</p> <p>・全学年で「心と体に向き合う心身プロジェクト」の取組を進めてきた。子どもたちが心や体について知り、自分やみんなを大切にすることを育むきっかけとなった。</p> <p>・委員会が計画して、子どもたちが体を動かすイベントを定期的に行った。また、朝の時間に校庭や体育館などで体を動かす活動を学年などで取り組んだ。継続して体を動かす活動に取り組むことで休み時間などに進んで体を動かす姿が見られた。</p> <p>・ふれあいの集い(全校遠足)では、たてわり班で計画を立て、園内を回って楽しんだ。上の学年は自分たちが行きたいコースを一方的に決めるのではなく、下の学年の児童の言葉に耳を傾け、みんなで楽しめるように工夫をしていた。</p> <p>・年間を通して行ってきた「たてわり班活動」では、6年生が中心になって活動を計画したり、進めたりしてきた。下の学年の児童は高学年の話を聞き、活動を楽しむ姿が見られた。</p> <p>・地域の方に教わりながら、農業に触れる体験や地域の豊かな自然に親しむ体験をし、岡上という地域に子どもたちが愛着をもつことができた。</p>	<p>・校内研究会や研修会を通して、子どもたちの思いを大切にされた学習を追究していく。</p> <p>・教科部会等でカリキュラムについて、話し合う機会を設け、学習のねらいを教員で確認する。</p> <p>・学習の振り返りから次の学習のめあてをつなげるような授業づくりを目指し、アンケートなどから学習を改善していく。</p> <p>・「心と体に向き合う心身プロジェクト」の取組を振り返り、子どもたちが今後も系統的に学べるようにしていく。</p> <p>・運動を通して自分の体の調子に気が付くような取組を行う。</p>	
3	<p>◎つながり合い ○「つながり合い」を意識できるようにする。 ○リーダーシップやフォローシップを育てる。</p>	<p>・たてわり活動などの異学年交流を通して、子ども同士の関わりを豊かにし、「温かい雰囲気」を醸成する。</p> <p>・行事や体験活動のめあて、ふりかえりを意識し、友達との「つながり」、地域との「つながり」を実感できるようにする。</p>	<p>・「ふれあいの集い(全校遠足)」では、たてわり班で計画を立て、園内を回って楽しんだ。上の学年は自分たちが行きたいコースを一方的に決めるのではなく、下の学年の児童の言葉に耳を傾け、みんなで楽しめるように工夫をしていた。</p> <p>・年間を通して行ってきた「たてわり班活動」では、6年生が中心になって活動を計画したり、進めたりしてきた。下の学年の児童は高学年の話を聞き、活動を楽しむ姿が見られた。</p> <p>・地域の方に教わりながら、農業に触れる体験や地域の豊かな自然に親しむ体験をし、岡上という地域に子どもたちが愛着をもつことができた。</p>	<p>・行事等を計画・実施する際、児童のリーダーシップ・フォローシップを意識した活動になるように職員でねらいを確認する。また、児童が時間に余裕をもって考えたり話し合ったりできるようにする。</p> <p>・6年生と5年生が一緒になって活動をする機会をつくり、ブロックとしてのリーダーシップを育てる。</p>
4	<p>◎支え合い ○児童の言葉を受け止める教職員の意識の向上を図る。 ○児童が自分の思いを相手に伝えることに自信がもてるようになることを目指す。</p>	<p>○学校生活アンケート実施後に、相談することの良さを感じることができるよう、日常の対話の充実を図る。</p> <p>○共生・共有プログラムの実践研修を行い、自己信頼、他者理解に課題がある児童一人一人を教職員間で共通認識のもとと支援する。</p> <p>○防災学習や訓練を通し、緊急時の対応力や自分で自分を守る力を育てる。</p>	<p>・学校生活アンケート実施後の担任等による聞き取りを全児童に対して行うことを計画し、実行した。担任等からも、じっくり話を聞くことができよかったとの意見が多かった。しかし、困ったことがあったとき、誰かに相談できないと考えている児童が少なからずいるので、より相談しやすい環境づくりが課題。</p> <p>・共生・共有プログラムでは、自分づくり、仲間づくりを推進した。自己信頼、他者理解に課題があると思われる児童一人一人の理解を深めるために、実践的な研修を年2回行うことができた。友達と関わる中で、相手のことを思い言葉づかいをしようとしている、と考えている児童が多い。一方で自分や相手を大事に思う心が育っていないと考える児童とへの対応が課題。</p> <p>・「防災訓練や防災学習を通し、緊急時にどう対処すればよいかかわり、行動しようとしていた」と考える児童がほとんどである。一方で保護者は、「あまり思わない」「わからない」との回答も多い。家庭との連携をさらに深め、いつでも、どこでも緊急時に対応できる力を育てることが課題。</p>	<p>・相談することの良さを感じることができるよう、教職員がチームとして着実に対応していくこと、日頃から積極的に児童へ働きかけ、日常の対話の充実が児童指導上大切であるとの理解の促進(SOSの出し方・受け止め方教育の推進を含む)。家庭からの相談が起点となることも多いので、支援教育コーディネーター、養護教諭、学校巡回カウンセラーの相談活動の充実と、いつでも、どこでも、誰とでも相談できることへのさらなる周知徹底。</p> <p>・「自分を知ること、友達を知ること、そして大切にできること」。互いに気づき認め合うためのコミュニケーションの在り方について高めていくための実効的な手立てを検討、実施し人権尊重教育の充実を図る。</p> <p>・避難訓練の実施回数を増やし、様々な状況に応じた対応力を身につけられるように工夫する。家庭にも学校での取組を積極的に伝え、ともに連携して自分で自分を守る力の育成に努める。</p>
5	<p>◎安全・安心 ○人権尊重、いじめを許さない心の醸成と環境を構築する。 ○個のニーズにあった支援の体制を強化する。</p>	<p>・効果測定で明確になった学級の課題を意識しながら道徳教育、共生共有、人権尊重教育を充実させる。全教師が全校児童をみていくことを目指し、教師が日常的に児童への言葉かけを配慮しながら一人ひとりを大切にしている。</p> <p>・言葉の使い方だけでなく、聞き方についてもより大切にしていけるように指導していく。</p> <p>・児童の実態に応じた支援法を考え、児童理解を一層深めている。</p>	<p>・効果測定をもとにしながら児童の個性や人間関係を見取り全校で共通理解を図ってきた。クラスを問わず、児童に声をかけ児童の様子について共有していた。教職員全体で児童を見ていくことができた。</p> <p>・学校の教育活動全体の中で言葉の使い方意識して指導してきた。</p> <p>・支援教育コーディネーターや「学びに向かう力を育むはなまプロジェクト」を中心として、必要な児童に取り出しなどの支援を行うことができた。</p>	<p>・効果測定で明確になった学級の課題を意識しながら道徳教育、共生共有、人権尊重教育を充実させる。全教師が全校児童をみていくことを目指し、教師が日常的に児童への言葉かけを配慮しながら一人ひとりを大切にしている。</p> <p>・思いを伝えようとする姿勢や聴こうとする姿勢を培えるよう、指導していく。</p> <p>・ケース会議などを通し児童への共通理解を深め、実態に応じた支援法を考えていく。</p>
6	<p>◎安全・安心 ○事件・事故を未然に防ぐ指導と体制づくりを推進する。</p>	<p>・地震や火災の発生状況のパターンはいくつもあるため、長期的な見通しをもつて計画的に行っていく。</p> <p>・今年度の反省も生かし、児童の実態、地域の実態に即した防災・防犯計画を作り上げていく。</p>	<p>・発生状況を変え、複数回訓練を繰り返すことで児童が状況的確に判断し落ち着いて対応することができた。</p> <p>・訓練後の反省を活かしながら、よりよい訓練の在り方を模索し積み重ねてきた。岡上防災学習日では地域と協力的な学習を展開し、地域の方の話や体験活動を通して、児童にとって防災がより身近になった。</p>	<p>・今年度の反省を生かして長期的視野に立って防災・防犯訓練を行っていく。</p> <p>・家庭と連携できるよう、機会をとらえ自分の身を守る行動ができるように呼びかけていく。</p>

<p>学校関係者の評価</p> <p>・子どもたちが自分たちで校庭の使い方などのルールを作っていた。自分たちでできることを考え、言葉にする力が育ってきていると感じた。ポジティブな言葉を使ったポスターからも、言葉への意識を育てていると感じた。 ・安全について自分で自分の身を守ることができるよう、家庭とも連携し共にその意識を育てていきたい。</p>	<p>学校運営のまとめ</p> <p>言葉を大切に、自分の思いや考えを伝えられる力、受け止め合える力を育てていくことを学校運営の柱としてきた。思いを大切にされた授業づくり、リーダーシップ・フォローシップを育てる異学年交流や地域との体験活動の中で、主体的に取り組み、楽しみ成長する姿が見られた。さらに子供たち全員が安心して思いを伝え合えるようになってきた。また、今年度の取組について、家庭や地域と連携して、自分の身を守る行動がきでるようになってきた。</p>
---	---